



## 作場～河口の島からにぎわいの町へ

## の島と古信濃川の誕生

濃川と阿賀野川の河口部分の地形は何度も変化をしました。右岸の沼垂町は川の侵食から逃れ多転を重ね、貞享元年(1684)に現在地に定住しました。後川幅は沼垂町側に大きく広がり、信濃川には多島や島ができていきました。沼垂町と対岸の新潟町所有権を争いますが、元禄12年(1699)に島の支配権が新潟町のものとなります(元禄の辻訟図、図A)。

その後約50年で沼垂側に寄り付くほどになり、付寄（よりしま）または向島（むこうじま）と呼ばれました。この間は幅70～140mほどの浅瀬（古信濃川）になっていたが、濃川の本流は島と新潟町の間に変わっていました。

# 「流作場新田」開発

3年(1746)、新潟町を統治していた長岡藩は付寄島を安倍玄的(あべげんてき)ら5名に命じます。沼垂の付寄島の一部所有権を主張しますが(延享の島争い)入れられることはありませんでした。

年(1750)、4年の開発期間を経て新田村が誕生したが「**流作場新田**」で、開発の中心となった**安倍玄前**をとつて「**玄的**」とも呼ばれました。

新潟町と沼垂町をつ  
信濃川を挟んで位置する新潟

4年(1843)の新潟上知によって、新潟町は幕府領です。弘化元年(1844)には流作場新田と寄居村もあり、幕府領となりました。

舟によるものでしたが、明治19年に萬代橋から沼垂町をつなぐ鉄橋が架けられ、行き来の方法が大きく変化します。

A map of Niigata City, Japan, showing the area around Niigata Station. The station is located in the northern part of the city, near the confluence of the Niigata River and the Kaga River. The map highlights the 'Kaga River' (かやの川) and shows the 'Niigata Station' (新潟駅) area. The surrounding urban grid is visible.

信濃川 萩野流作場新田 全国とつなぐ

昭和50年代には**流作場**という正、昭和、平成いう時代の流れの果たす要の地区として、さらに変化



分)

中で、新潟市の拠点機能を  
より発展を結んでいます

